『DETECTIVE X CASE FILE #3 地図にない島』
ゲーム内動画／音声文字起こし

2026/7/31 ©SCRAP
※本**PDF**の無断転載、配布を禁じます。

目次

●インビテーションよりアクセスする動画…**P2**

●封筒**1**を開けたあとにアクセスする動画その**1**…**P3**～**4**

●封筒**1**を開けたあとにアクセスする動画その**2**…**P5**

●封筒**2**を開けたあとにアクセスする動画…**P6**

●封筒**4**を開けたあとにアクセスする動画…**P7**

●封筒**5**を開けたあとにアクセスする動画その**1**…**P8**

●封筒**5**を開けたあとにアクセスする動画その**2**…**P9**～**10**

●最後の封筒を開けたあとにアクセスする動画…**P11**

●オープニングムービー
インビテーション内の二次元コードよりアクセス

少年「またここにいたの？」
少女「ここ好きなの」

少女「ねえ、お兄ちゃん、あたし夢ができた。将来の夢」
少年「え、どんな夢？」
少女「あのね、あたしね……」

―「Shusuke Michio×SCRAP」の表示とともにサイレンの音

～ニュース映像～

キャスター「最新のニュースをお伝えいたします。昨夜9時過ぎ、鳥取県小湊市七汐町（こみなとしななしおちょう）の路上で、町内に住む高校生の御堂晴海（みどうはるみ）さんが、腹部から血を流して倒れているところを兄によって発見され、駆けつけた救急隊により、その場で死亡が確認されました。
御堂晴海さんは正面から腹部を刃物のようなもので刺されており、警察は殺人事件とみて捜査を進めています。
殺害された御堂晴海さんは高校3年生で、県内にあるボートスクールに出かけた帰り道、自宅付近の路上で被害に遭ったとみられています。
こちらは当番組が独占入手した、遺体発見直後の現場映像です」

男性「（泣き叫びながら）晴海ー……晴海ー！　晴海……晴海……いやだー！　晴海ー！」
女性「妹さんのためにも、ね、しっかりして」
男性（泣き叫んでいる）
女性「それ、録画してるんですか？」
撮影者「あ、いえ……」
女性「とめて、早く！」
撮影者「あ、すいません……」

キャスター「また、地元住民の方々にもお話をお伺いしました」

御堂晴海さんを知る女性「ほんと怖いですよ、家のすぐ近くですし……ええまあ、御堂さんのお宅はこのへんでは有名ですし、晴海ちゃんのことも、昔から、はい……小学生のときから、道で会ったら元気に挨拶してくれる子で……あんな立派なお家で暮らしてるのに、すごく素直で……人に恨まれるようなことは絶対ないと思うんですけど……見つけたの、お兄さんだったって聞いて……あそこ双子の兄妹だったし、ショックはねえ……どれだけだったか……」

御堂晴海さんの同級生「私と同じ海洋科で、海のこと勉強してて……晴海ちゃん船のことすごい好きで、すごく詳しくて……私いつも分からないところ教えてもらってて……18歳になったら大きい船を操縦する免許を取るって言っていて、すごく楽しみにしてたんです……」

キャスター「現場はひとけのない路地で、警察によると現在のところ目撃情報はなく、通り魔の可能性も視野に入れて捜査を進めているとのことです」

●防犯カメラの映像
封筒**1**:「捜査資料バインダー」内「供述調書作成用覚書（田崎知子）」の二次元コードよりアクセス

──ノックの音

田崎知子「社長、大丈夫でしたか？　なんだかブレーカーが落ちてたみたいで……。失礼します」

──ドアを開ける音

御堂晴海「あれ、田崎さん、お祖父ちゃんは？」
田崎知子「それが、いらっしゃらなくて……これ……」
御堂晴海「え、何これ？　どうしたの。お祖父ちゃん、コーヒーカップのかけら踏んじゃったのかな。え、そんで、外出てった？」

田崎知子「サンダルがなくなってる……」

──部屋の外から声が近づいてくる

御堂渚「お父様ー、瀬谷さんも……ナントカさんもいらしてるわよー」
小野沢雅史「小野沢です」
御堂渚「ああ、ごめんなさい、さっきお名前伺ったわね」
小野沢雅史「ええ」

──渚、小野沢、部屋に入る
──瀬谷穣治、部屋に入る

瀬谷穣治「あれ、伊佐男いねえの？」
田崎知子「そうなんです」
御堂晴海「そこのサンダルがなくなってて、外出てっちゃったみたい」
御堂渚「え？」
御堂晴海「杖もないし」

瀬谷穣治「え、どこ行っちゃったんだよ？」
小野沢雅史「なんか変ですね」
御堂渚「怪我は大したことなさそうだけど」

小野沢雅史「心配だから、ちょっと外を捜してみますか？」
御堂渚「そうね」
小野沢雅史「どこ行ったんだろ」

──小野沢、渚、部屋を出る。すぐに田崎、瀬谷も部屋を出る

御堂晴海「ほら、お兄ちゃんも行こ」

──遠くでドアを開ける音

御堂渚「みんなでかたまって捜しても意味ないから、適当に分かれて捜しましょ」

──遠くでドアが閉まる音

──しばらくして遠くでドアが開く音
──晴海、海斗、瀬谷が部屋に入る

御堂晴海「ねえお兄ちゃん、やっぱりいちおう警察に相談しようよ」

──遠くでドアが閉まる音

御堂海斗「晴海がそう言うなら、僕はべつに……」
瀬谷穣治「伊佐男のことだから、またふざけてんじゃねえの」

──小野沢、渚、田崎、部屋に入る

小野沢雅史「普段からそういう冗談をされる方なんですか？」
御堂渚「お父様ならやりそうだけど、でも心配は心配よね」
田崎知子「私、連絡しましょうか」
御堂渚「いい、私が電話する」

●誕生日のお祝い動画
封筒**1**:「捜査資料バインダー」内「供述調書作成用覚書（御堂渚）」の二次元コードよりアクセス

──クラシカルなBGMが流れる

御堂伊佐男「お祖父ちゃんだよ。海斗、晴海、誕生日おめでとう。今年もビデオメッセージを贈らせてもらうよ。
お前たちが9歳の時に初めてこうしてお祝いのメッセージを撮ってから、これでちょうど10回目だ。大きくなった。2人とも本当に大きくなったね。お父さんもお母さんも天国で喜んでるんじゃないかな。
お前たちがお父さんとお母さんを亡くしてから、いろんなことがあった。小さな孫たちを引き取って一緒に暮らすなんて、自分にはできるんだろうかと思ったけど、でも、田崎さんがいろいろ助けてくれたおかげで、何とかやってこられたんじゃないかと思う。お前たちにはたくさん不便をかけたし、寂しい思いをさせることもあって、申し訳なかったけどね。
海斗、お前は正直で優しくて強い。晴海、お前は笑顔で周りを照らす温かい光みたいな子だ。そんな2人を孫に持ったことを、お祖父ちゃんは本当に誇りに思う。長年会社を経営してきたことよりも、何よりも、それを誇りに思う。
知っての通りお祖父ちゃんは、いつまでこうして元気でお前たちと話ができるかわからない。でも、これだけは覚えておいてほしい。お父さんとお母さんがそうだったように、お祖父ちゃんもずっとずっと、2人を愛してる。
そして、お前たちには、いつもお互いがいる。お前たちはただの兄妹じゃない。たったの5分違いで生まれてきたんだ。お互いがお互いの分身みたいなものだ。助け合って何だってできる。
今夜の食事会の後、今年の誕生日プレゼント……最後のパズルピースを受け取ったら、さあ、冒険の始まりだ。お祖父ちゃんが諦めた夢を、お前たちに託させてもらうよ。18歳の誕生日、おめでとう」

──BGMではチェロが1小節に5音ずつ「長長長長長」「長長長短短」「短短長長長」「短長長長長」という長さで演奏され、それが繰り返されている

●ICレコーダーの音声
封筒2：ICレコーダーの写真が印刷された用紙の二次元コードよりアクセス

御堂伊佐男「えー（咳払い）……海斗と晴海へ。もうお祖父ちゃんは、病気がすっかりすすんでしまったよ。医者にも、いよいよ命は長くないと言われてる。いつ意識を失ってもおかしくないそうだ。最近は、記憶もずいぶんおかしくなってきて、こんなふうに何でも録音しているよ。そうしないと、忘れちゃうかもしれないからね。
来週、お前たちの誕生日が来たら、2人に誕生日プレゼントを渡すつもりだけど……そんなちょっと先のことさえ、うっかりすると忘れてしまいそうになる。本当に最近は、10分前のことも思い出せないときがあるんだよ。それがもう心配で心配で……恥ずかしいことだけど、大事なことはみんな、こんなふうに録音に残してる。
お祖父ちゃんに何かあったときは、田崎さんがレコーダーの中身をみんな確認してくれることになってるからね。このレコーダーと、田崎さんがいれば、安心だ。
もしお祖父ちゃんが、お前たちに誕生日プレゼントを渡すのを忘れていたら、申し訳ないけど、自分で持っていってくれ。プレゼントは、毎年お前たちが聞いている、あの曲の中にあるからね。
よーく耳をすまして、曲を聞きなさい。メロディなんて関係ない。1つ1つの音がそこにあることが重要だよ」

──マイクを爪でこすったり、叩いたりする音
「ザー、コッ……コッ、コッ、ザー……ザー、ザー……ザー、コッ、コッ、コッ……コッ……コッ、ザー、コッ」

御堂伊佐男「船が好きなお前たちなら、わかってくれるだろうね。あー、さて、そろそろみんな……お？　あれ、電気が……あ、これ、停電か……？」

──がさごそと周囲を探る音

御堂伊佐男「おっと……」

──コーヒーカップが床に落ちて割れる音

御堂伊佐男「はあ、まずいな」

──部屋のドアが開く音

御堂渚「ねえお父様、なんかブレーカーが落ちたみたいなんだけど、この家ってブレーカーボックスってどこにあるの？」
御堂伊佐男「ブレーカーボックスは……確か……玄関の脇じゃなかったかな」
御堂渚「ちょっとブレーカー見てくる。家じゅう真っ暗で危ないからそこでじっとしててね」
御堂伊佐男「ああ、わかったよ」

──部屋のドアが閉まる音
──ノックの音

御堂伊佐男「ん、何だ……」

──ノックの音

●防犯カメラの元映像
封筒**4**:「捜査資料 **#78**」の二次元コードよりアクセス

──ノックの音

田崎知子『社長、大丈夫でしたか？　なんだかブレーカーが落ちてたみたいで……。失礼します」

──ドアを開ける音

御堂晴海「あれ、田崎さん、お祖父ちゃんは？」
田崎知子「それが、いらっしゃらなくて……これ……」
御堂晴海「え、何これ？　どうしたの。お祖父ちゃん、コーヒーカップのかけら踏んじゃったのかな。え、そんで、外出てった？」

田崎知子「サンダルがなくなってる……」

──部屋の外から声が近づいてくる

御堂渚「お父様ー、瀬谷さんもナントカさんもいらしてるわよー」
小野沢雅史「小野沢です」
御堂渚「ああ、ごめんなさい、さっきお名前伺ったわね」

──渚、小野沢、部屋に入る

小野沢雅史「ええ」

──瀬谷穣治、部屋に入る

瀬谷穣治「あれ、伊佐男いねえの？」
田崎知子「そうなんです」
御堂晴海「そこのサンダルがなくなってて、外出てっちゃったみたい」
田崎知子「え？」
御堂晴海「杖もないし」

瀬谷穣治「え、どこ行っちゃったんだよ？」
小野沢雅史「なんか変ですね」
御堂渚「怪我は大したことなさそうだけど」

小野沢雅史「心配だから、ちょっと外を捜してみますか？」
御堂渚「そうね」
小野沢雅史「どこ行ったんだろう」

──小野沢、渚、部屋を出る。すぐに田崎、瀬谷も部屋を出る

御堂晴海「ほら、お兄ちゃんも行こう」

──遠くでドアを開ける音

御堂渚「みんなでかたまって捜しても意味ないから、適当に分かれて捜しましょ」

──遠くでドアが閉まる音
──しばらくして遠くでドアが開き、閉まる音
──海斗が部屋に入ってきて、無言で何かをした後、カメラに手をかける

●**kaito0421**さんのライブ動画
Webサイト:「情報提供用受信**BOX**」のメッセージよりアクセス

──船のエンジン音

御堂海斗「何もできない人間でごめんなさい……お祖父ちゃんが僕たちに残してくれたプレゼントも、悪い人間に取られちゃうかもしれない……でも、嫌です……ぜったい顔を撮ってやります……勇気をください……勇気をください……」

──カメラが船室内を映す

男性「もうすぐだ……もうすぐ8億が手に入る……俺たちの勝ちだ……」
女性「×××××(聞き取れない)」
男性「それについては心配いらない。インゴットのシリアルナンバーは消せばいいんだからな……俺の工場で鋳造しなおせば簡単にシリアルナンバーなんて消せる……現金に換えるのも問題ない」
女性「×××××(聞き取れない)」
男性「ははははは……俺たちを疑う奴なんて誰もいない……俺たち」

──「接続が不安定です」と表示し、映像が止まる
──映像が再開すると、カチャンと何かが鳴る音

男性「何だいまの音は？」

──カメラが素早く下に動き、海斗の息遣いが聞こえる

男性「いまあっちで何か聞こえたよな……え、おい、誰かいるのか!?」
女性「嘘でしょ？　ねえちょっと、船とめて……とめて、早く！」

●エピローグ映像
Webサイト：事件の真相がわかったあとにアクセス

──船のエンジン音と海斗の息遣い

御堂海斗「（緊迫した囁き声）電波が悪くてライブ中継ができないから、せめて動画に残します。これを見た人は、どうか警察に渡してください……」

──私服姿の矢上由希の姿が映る

御堂海斗「刑事さん！　よかった、いま刑事さんにメッセージを送ったとこなんです。もうわかってると思うけど、その人」

──操縦席にいた小野沢雅史がこちらに向かってくる

小野沢雅史「そこ動くなよ……スマホを置け」
御堂海斗「え……刑事さん！」
小野沢雅史「早くしろ！」
御堂海斗「刑事さん、早く！　この人を捕まえて！」

──小野沢と海斗、揉み合っている

矢上由希「ちょっと待って！　インゴットの場所を調べさせた探偵から……連絡がきてる」

──小野沢は動きを止め、矢上の持つスマートフォンを見る

矢上由希「もう……駄目……」
小野沢雅史「何がだ！」
矢上由希「あの探偵に、もう、ぜんぶばれてる……」
小野沢雅史「なら、こいつを海に落としたあと、そいつを殺しに行けばいい」
矢上由希「無理！」
小野沢雅史「それしかない！　8億円だぞ!?」

──小野沢、再び海斗に向き合い、海斗を殴る

矢上由希「もう終わり……ねえ……もうぜんぶ終わり……」
小野沢雅史「うるさい！」

──小野沢と海斗の激しい息遣い。矢上のすすり泣く声

小野沢雅史「（声が離れていく）あんた、もう邪魔だからいいよ」
矢上由希「何……何……？」
小野沢雅史「最初からこうするつもりだったし」
矢上由希「え、嘘でしょ？　インゴット見つけたら、お金に換えて、半分くれるって……」
小野沢雅史「利用しただけだよ……あんただって探偵を利用しただろ！」
矢上由希「やめて……ねえちょっとこっち来ないで！」

──海斗が雄叫びを上げる音。慌てる小野沢の短い叫び。矢上の悲鳴。格闘しているような激しい物音

～海斗の部屋での自撮り～

御堂海斗「探偵さん、はじめまして。御堂海斗です。いまの動画は、船の上で僕が撮ったものです。
いっぱい殴られちゃったけど……僕、最後の最後に勇気を振り絞って、小野沢って男を海に突き落としました。自分にそんなおっかないことができるなんて想像もしてなかったけど、妹が力を貸してくれたのかもしれません。
このあと別の船が通りかかって、小野沢を海から引き揚げてくれたから、命は助かりました。
矢上刑事は自分で警察に連絡をして、大勢の刑事さんたちが船に乗ってやってきて、僕たちは船の上で取り調べを受けました。そのときに僕、初めて、何が起きていたのかを知りました。
探偵さん、お祖父ちゃんと妹を殺した犯人を見つけてくれて……それから、お祖父ちゃんが僕たちに遺した、大きなプレゼントの隠し場所を見つけてくれて、本当にありがとうございます。
あれから警察といっしょに海に出て、お祖父ちゃんが海に浮かべた秘密の島を見つけました。探偵さんが言い当てたとおりの場所にちゃんと浮かんでて、警察がワイヤーを引き揚げたら、樹脂みたいなケースに入った金（きん）が、ほんとに出てきました。
妹と、2人で冒険して、それを見つけれなかったのは、すごく……すごく、残念です。
渚おばさんと田崎さんが、いろいろ書類をつくってくれて……なんかほんとに、お祖父ちゃんが金（きん）に替えたすごい額のお金が、僕のものになるみたいです。
でも……妹の昔の日記に書いてたように、僕はそのお金を、自分じゃなくて、困ってる人のために使おうと思います。渚おばさんも田崎さんも、それでいいって言ってくれました。僕はこれから……どうしたらいいかわかりませんが……とにかく生きていきます。妹のぶんまで、強く生きていきます。強く……。
探偵さん、最後にもう一回言わせてください。
本当に、ありがとうございました」

──モールス信号が流れ、1文字ずつメッセージ「Good work, detective!」ができていく

●エンディングムービー
最後の封筒:「エンディングムービー」用紙の二次元コードよりアクセス

少年「またここにいたの？」
少女「ここ好きなの」

少女「ねえ、お兄ちゃん、あたし夢ができた。将来の夢」
少年「え、どんな夢？」
少女「あのね、あたしね……あたし、（立ち上がって）警察官になる。お兄ちゃんが迷子になったとき見つけてくれたカッコいいおまわりさんみたいに」
少年「警察官なんて、お前には無理だよ。泣き虫だし」
少女「大人になったら、もう泣かない」
少年「嘘だね、ぜったい泣く」
少女「泣かない」
少年「（立ち上がって）無理だね、泣くよ」
少女「泣かない！」
少年「……わかったよ。泣かない。もう行くよ、由希」

──エンドロール
──テーマソング「夢の口笛」が流れる
──丘のシーンに場面転換し、最後に「夢の口笛が　今も聞こえてる」と歌われる

──拘置所にて、海斗の声で手紙が読まれる

矢上由希様
突然のご連絡で、驚かせてしまったらすみません。留置場の中の人に手紙を書くなんて初めてなので、ちゃんと届くかどうか心配です。
あれから報道で、矢上さんのお兄さんのことを知りました。
矢上さん、とても大変な生活を送ってきたんですね。
妹の晴海には、子供のときからずっと夢がありました。それは、いつか冒険して宝物を見つけて、それを使って困っている人たちを助けるという夢でした。9歳の頃の日記にも書いていたし、中学生になってからも、高校生になってからも、ずっとそう言っていました。だから、その夢を、少しずつ叶えていこうと思っています。
僕の中で真っ先に思い浮かんだ「困っている人」は、あなたでした。
ご提案というのは、それについてです。お兄さんが目を覚ますために必要な手術費用を、僕に出させてもらえないでしょうか。田崎さんに相談したところ、アメリカの病院とも話をつけてくれるそうです。
矢上さんには恩があります。あなたがあの探偵さんに依頼をしてくれなければ、妹やお祖父ちゃんを殺した犯人は、いつまでも捕まらなかったかもしれません。
田崎さんの話だと、お兄さんの手術が成功する確率はそれほど高くないようですが、やってみる価値はあると思います。信じることが、なによりも大切です。
ご判断は、あなたにおまかせします。
お返事お待ちしております。

──矢上由希のすすり泣く声